

長野市立博物館収蔵資料目録

歴史 3

諸家文書目録(1)

水内郡 長野市上松

山岸家文書

水内郡 長野市高田川端

高山家文書

水内郡 長野市柳原

市川家文書

水内郡 長野市安茂里小市

大矢家文書

更級郡 長野市稲里町中氷鉋

瀬川氏収集文書

その他購入文書

目次

水内郡	長野市上松	山岸家文書	1
水内郡	長野市高田川端	高山家文書	9
水内郡	長野市柳原	市川家文書	17
水内郡	長野市安茂里小市	大矢家文書	29
更級郡	長野市稲里町中氷鉋	瀬川氏収集文書	41
	その他購入文書		51

凡 例

一、本目録は、長野市立博物館が所蔵する長野市上松山岸家文書、長野市高田川端高山家文書、長野市柳原市川家文書（購入資料）、長野市安茂里小市大矢家文書、長野市稲里町中氷鮑瀬川氏収集文書、その他購入文書を収録した。

一、文書の配列は原則として編年順とし、一部独自に分類し編年順とした。年代は文書記載年次を採用し、年月日未詳のものは末尾に、干支・月・日のわかる順に配列した。

一、文書の表題は原文書の表題をそのまま採用した場合と、適宜編者が付した場合とがある。後者の場合は表題に（ ）を付けて区別した。

一、作成者または差出人および宛名のうち、複数のものの一部は適宜省略し、〇〇ほかとした。

一、形態は簿冊類では、縦帳、横帳、横半切帳（横半）とし、綴物は綴、冊子本は冊、一紙物は状、切紙は切と区別した。

一、本目録の作成は山岸家文書、その他購入文書を原田和彦（松代藩文化施設管理事務所学芸員）が、その他の文書を降幡浩樹（当館学芸員）が担当した。

水内郡

長野市上松

山岸家文書

山岸家文書解題

山岸家文書は、昭和五〇年（一九七五）、長野市教育委員会社会教育課が長野市上松の山岸久平氏より購入した文書である。その後、昭和五十六年に長野市立博物館が開館するにあたり、同文書は社会教育課から博物館に移管された。文書群はほとんどが村政に関したもので、地附山の入会に関する文書も含まれる。総数は一二二件、一二二点。

上松は、善光寺の北東にあたる地域をさし、江戸時代を通じて松代領であった。同村の石高は「正保郷村帳」九五四石余、「元禄郷帳」・「天保郷帳」九六八石余である。元禄頃の「高井郡・水内郡・更級郡・埴科郡添目録扣本」（大日方家文書―当館寄託）には「一、高本村高之内 水内郡之内上松村之枝村二カ所、滝村 右親村より申之方へ四町五〇間」、「同 湯屋村 右親村より子之方へ九町五六間」と、枝村二カ村の名が見える。

山岸家は幕末期に茂右衛門が同村滝組（村）の名主を、明治には山岸仁三郎が区長を勤めた家である。文久三年（一八六三）の山岸茂右衛門の家族構成は表一のようである（No.一九）。また、文書から滝組の人口推移を見ると表二のようになる。

滝組の年貢皆済目録（No.七〇―一二）によると、惣納粃一七三俵八升二合二タ。その払いとして、一三七俵一斗二升五合の粃納と、金一一兩二分と銀八匁一分四厘の金納とに分けられる。前者の内訳は三六俵余を御飯米（二六％）、三〇俵を亥年御蔵入（二二％）、二〇俵を粃御蔵入（一五％）、四七俵を御蔵継（三四％）、四俵を名主給（三％）としている。後者の内訳は、下綿銀一三匁二分二厘、役在金一分銀九匁七分八厘、大豆金二兩二分銀八匁六分二厘、月割金納二兩一分銀七匁一厘、粃代金納六兩銀一四匁五分二厘である。この他御小役金三兩二分余、名主役給一兩、合計金一六兩一分銀三匁一分七厘を四月から一二月まで九回で分割して納めている。

表1 文久3年(1863)
山岸茂右衛門の家族構成

茂右衛門	55歳
すめ(女房)	47歳
仁三郎(子)	22歳
廣吉(子)	21歳
作之丞(子)	17歳
まん(子)	14歳
なか(子)	12歳

「五人組軒別人別御書上帳」(No.19)
より作成

表2 上松村滝組の人口推移

年	男	女	合計	史料番号
寛政11年(1799)	71	43	114	No.69
天保11年(1840)	42	53	95	No.24
嘉永4年(1851)	46	54	100	No.22
嘉永5年(1852)	43	55	98	No.16
嘉永6年(1853)	46	56	102	No.17
安政7年(1860)	48	48	96	No.20
万延2年(1861)	48	53	101	No.21
文久2年(1862)	47	55	102	No.23
文久3年(1863)	45	55	100	No.19

山岸家文書(五五・C・三)

番号	年月日	表題(内容)	差出人	受取人	形態	数量
二六	宝暦九年九月二三日	丑之御年貢勘定目録	関山清兵衛	植松村肝煎ほか	横帳	一
二七	明和八年四月	上松村御高辻之内幸治郎持写水帳	徳嵩八左衛門		縦帳	一
二八	明和八年四月	上松村御高辻之内茂右衛門持高写水帳	徳嵩八左衛門		縦帳	一
六七	明和九年二月	地附割山間数改御年貢帳	持主 茂右衛門		縦帳	一
一五	安永九年三月	定例自普請人足御立テ方控帳	上松村		縦帳	一
四五	天明一年	(村入用夫錢帳)	吉右衛門ほか		横帳	一
八一	天明五年二月	(吉兵衛、村に無断で金借用に付郷中連印)	上松村瀧組	十兵衛ほか	状	一
七七	天明五年八月	(田畠を荒さないなど村の取決)	重兵衛ほか		状	一
七三	天明五年	(立ち木伐採につき証文)	重兵衛ほか		状	一
七四	寛政五年四月	譲り渡し申田畑之事	上松村本郷	重治郎ほか	状	一
六九	寛政一年八月	切支丹宗門御改帳	瀧組	最右衛門	縦帳	一
五二	文政二年三月	借用金年賦証文之事(村借入金)	上松村瀧組名主要吉ほか	祢津左衛門	状	一
六三	文政二年三月	年賦御借用金証文之事(村借入金)	上松村瀧組名主要吉ほか	藤沼弥惣右衛門	状	一
六二	文政二年五月	(藩からの村借用金証文)	上松村瀧組名主要吉ほか	御勘定所	状	一
六六	天保一〇年八月五日	当村善太郎一件書留帳	瀧組名主弥左衛門		横帳	一
七一	天保一〇年一二月	(年貢皆済目録)	依田甚左衛門	上松村	状	一
一八	天保一一年三月	宗門人別御改御書上控帳	上松村瀧組名主孫左衛門ほか	御奉行所	縦帳	一
二四	天保一一年三月	五人組御改書上控帳			縦帳	一
三〇	天保一一年九月一三日	祖母不幸音信帳	山岸留蔵		横帳	一
五一	天保一三年一二月	年賦金御借用証文之事(村借入金)	要吉ほか	松本重右衛門	状	一
六四	弘化四年一二月	御借用金証文之事(村借入金)	上松村瀧組名主要吉ほか	御内借御掛御役所	状	一
五三	嘉永一年一二月	借用金証文之事	箱清水村直右衛門ほか	瀧村茂右衛門	状	一

七〇—四	嘉永四年一月	(月割上納金寛)	上松村瀧組	横帳	一
二二	嘉永四年二月	五人組家別人別御改書上帳	上松村瀧組名主茂右衛門ほか	縦帳	一
五〇	嘉永四年二月	(借用金証文)	伊右衛門	状	一
三五	嘉永四年八月	普請諸入料并諸職人控帳	山岸茂右衛門	横帳	一
二九	嘉永五年一月	日雇控帳		横帳	一
一六	嘉永五年二月	五人組家別人別御改御書上帳	上松村瀧組名主茂右衛門ほか	縦帳	一
三一	嘉永五年二月	麦柄買入控帳	滝村山岸茂右衛門	横帳	一
七〇—五	嘉永五年三月	凝月割金上納通	上松村瀧組	横帳	一
五四	嘉永五年四月	借用申金子証文之事	箱清水村甚右衛門	状	一
二	嘉永五年一〇月	(御用達金の受取書)	岡 莊藏ほか	状	一
四八	嘉永五年一〇月	(御用達金の受取書)	菊池孝藏ほか	状	一
七五	嘉永五年	(御小役運上銀の皆済状)	小林友之丞	状	一
一七	嘉永六年二月	五人組家別人別御改御書上帳	上松村瀧組名主茂右衛門	縦帳	一
七〇—六	嘉永六年四月	丑年月割金上納通	上松村瀧組	横帳	一
五五	嘉永六年五月	借用申金子証文之事	箱清水村甚右衛門ほか	状	一
四九	嘉永七年一月	(御用達金の受取書)	竹 金吾ほか	状	一
五八	安政一年一二月	借用申金子証文之事	茂右衛門ほか	状	一
四六	安政四年一二月	借用申金子証文之事	借主茂右衛門ほか	状	一
三	安政五年一月	(村借用金証文)	要吉ほか	状	一
四七	安政五年二月	(借用金証文)	借り主茂右衛門	状	一
五九	安政五年一二月	(借用金返済の延引願い)	箱清水村定吉ほか	状	一
二〇	安政七年二月	五人組軒別人別御書上帳	上松村瀧組名主茂右衛門ほか	縦帳	一
三三	万延一年一二月	当村作兵衛女房ちと決訴一件入用割合帳	上松村瀧組名主茂右衛門	横帳	一
二一	万延二年二月	五人組軒別人別御書上帳	上松村瀧組名主茂右衛門ほか	縦帳	一
七〇—七	文久一年一〇月	西納御在所御飯米通 (困粃)	上松村瀧組	横帳	一
二三	文久二年二月	五人組軒別人別御書上帳	上松村瀧組名主茂右衛門ほか	縦帳	一

七〇—八	文久二年三月	西納御飯米繰替粃御通（困粃）	上松村瀧組	横帳	一
八〇	文久二年四月	（よね縁組につき引取状）	長野村庄屋代弥右衛門ほか	状	一
六一	文久二年二月	借用申金子証文之事	茂右衛門	状	一
一九	文久三年二月	五人組軒別人別御書上	上松村瀧組名主茂右衛門ほか	縦帳	一
七〇—九	文久三年四月	西納御困御飯米粃繰替納通（困粃）	上松村瀧組	横帳	一
一四	文久三年八月	物置普請諸事控帳	山岸茂右衛門	横帳	一
三九	文久三年一〇月	（善光寺堂宇再建について）	大本願上人役守宗光寺ほか	縦帳	一
七〇—一〇	文久三年一〇月	当亥納粃御蔵入通	上松村瀧組	横帳	一
七〇—一一	文久三年十一月	御飯米繰替粃通	上松村瀧組	横帳	一
七二	元治一年	（御小役所運上銀の皆済状）	伊東賢治	状	一
二五	慶応一年一二月	御年貢諸御役勘定帳	山岸茂右衛門	横帳	一
五六	慶応二年四月	借用申金子証文之事	茂右衛門ほか	状	一
五七	慶応二年四月	借用申金子証文之事	茂右衛門ほか	状	一
六〇	慶応二年四月	借用申金子証文之事	上松村名主市郎兵衛	状	一
七九	慶応三年	（分量御用達金の受取書）	長 三郎兵衛ほか	状	一
三二	慶応四年一月	金銀出入日記帳	山岸茂右衛門	横帳	一
八	明治三年四月三〇日	作之丞婚姻御祝儀控帳		横帳	一
七	明治三年一二月	御年貢御小役勘定控帳	山岸茂右衛門	横帳	一
六五	明治六年一月	御年貢諸役勘定控帳		横帳	一
六八	明治七年四月	字大峰山より当村地附山境論願書写并掛合開取記	持主山岸仁三郎	縦帳	一
一	明治八年一二月	地租改正当村諸々記	上松村山岸仁三郎	縦帳	一
六	明治九年八月一二日	子租税金夫錢控帳		横帳	一
三六	明治一年々	租税夫錢諸事控		横帳	一
四	明治一二年四月二〇日	たね婚礼はな向け御祝儀控	山岸仁三郎	横帳	一
三八	明治一六年一月	（借用金証文）		状	一
三四	明治二五年五月一七日	（借用金証文）		状	一

五	明治二六年一〇月	十王堂再建組長日記			
四三	明治二八年一月九日	(十王堂再建につき感謝状)	佛誉	山岸仁三郎	縦帳
三七	明治二九年一〇月	(借用金証文)			状
一一	明治三四年二月	建碑醸集簿			縦帳
四四	明治三四年三月二六日	(院号の授与証)	佛誉	山岸仁三郎	状
四〇	明治三四年四月二五日	碑石請負書	若槻村字吉石工有賀友四郎		縦帳
一〇	明治三四年五月五日	賀会御祝儀控簿			横帳
一二	明治三四年五月五日	賀会御祝儀控簿			横帳
一三	明治三五年二月八日	建碑金醸集簿			縦帳
四一	明治三九年一月二〇日	諸書類受取渡証券	岩崎嘉十郎ほか	前区長山岸仁三郎	縦帳
七〇—三	子・二月	(月割上納金覚書)			横帳
七八	五月六日	(酒・料理代金の領収書)			状
七六	欠	(無宿人を止宿させたことについて)			状
九	欠	学校義捐名簿			横帳
四二	欠	(裁判決定正本)	長野区裁判所		縦帳
七〇—一	欠	(年貢割付状)			状
七〇—二	欠	(年貢皆済目録)	田中銀右衛門ほか		状
八二	欠	(村借入金の依頼につき藩からの諭旨)			状
八三	欠	(四艘霞の依頼)	荒井勇左衛門ほか	山岸仁兵衛	状
八四	欠	(江戸幕府番付帳)			状
(暦)					
一〇九	文化五年	(伊勢暦)			状
一〇五	文化一三年	(伊勢暦)			状
一〇六	文化一五年	(伊勢暦)			状
八八	文政二年	(伊勢暦)			状

八六	文政三年	(伊勢曆)
一〇一	文政三年	(伊勢曆)
八七	文政四年	(伊勢曆)
九五	文政八年	(伊勢曆)
一一二	文政一二年	(伊勢曆)
九一	文政一三年	(伊勢曆)
九八	天保九年	(伊勢曆)
九九	天保一二年	(伊勢曆)
九二	天保一三年	(伊勢曆)
九三	天保一三年	(伊勢曆)
八九	天保一五年	(伊勢曆)
九〇	天保一六年	(伊勢曆)
一〇二	弘化三年	(伊勢曆)
九六	弘化四年	(伊勢曆)
九七	弘化五年	(伊勢曆)
一〇三	嘉永二年	(伊勢曆)
八五	嘉永七年	(伊勢曆)
一〇〇	安政五年	(伊勢曆)
一一〇	安政五年	(伊勢曆)
九四	安政七年	(伊勢曆)
一〇四	文久二年	(伊勢曆)
一〇八	文久三年	(伊勢曆)
一一一	元治二年	(伊勢曆)
一〇七	慶応二年	(伊勢曆)

状 状

一 一

水内郡

長野市高田川端

高山家文書

高山家文書解題

高山家文書は平成八年（一九九六）七月、高山啓太郎氏（長野市高田川端）から当館へ寄贈された資料で、総数は三一件、八九点である。

高山家文書の特徴は各新聞社の号外にある。そのため、新聞資料と他の資料を分けて目録とした。新聞資料目録の（ ）は一面記事の見出しを表記した。

高山氏は昭和十一年（一九三六）から同一四年まで新聞配達を行うなか、こうした各紙の号外を収集した。号外は配布部数や配布方法など、一般紙と異なり保存されにくく、高山家の資料は貴重である。県内の図書館等でも号外の収集はされておらず、また新聞社が複数ある点も重要である。

これらの新聞資料は多く酸性紙が使われており、すでに劣化が著しいものもある。今後は保存の対策を講じる必要がある。

No.二三の信濃国善光寺略絵図は、松葉軒・長谷屋久左衛門版で、墨一色の一枚物の摺物である。同様の略絵図は多くの版元から出版されているが、これはその内の一枚である。

高山家文書目録（一九九六・A・三〇）

番号	年 月 日	表 題（内容）	差出人・受取人	形態	数量
一一二	弘化二年	太平万代 大成武鑑 御役人衆卷之三		冊	一
一一一	（弘化二年）	太平万代 大成武鑑 御大名□□		冊	一
二一一	弘化三年春版	倭文庫积迎八相初編下卷	万亭應賀著 一陽齋豊国画	合冊	一
二一二	新春版（弘化三年）	倭文庫积迎八相四編上卷	万亭應賀著 一陽齋豊国画		
二一三	弘化三年新刊	倭文庫积迎八相二編上卷	万亭應賀著 一陽齋豊国画		
二一四	弘化三年新刊	倭文庫积迎八相三編下冊	万亭應賀著 一陽齋豊国画		
二一五	弘化三年新刊	倭文庫积迎八相三編上冊	万亭應賀著 一陽齋豊国画		
一三	昭和十三年一月	科学知識一八卷一号		冊	一
一四	昭和十五年八月	蘭領東印度南洋地方要図		鋪	一
一五	昭和十七年九月	簡明世界現勢図		鋪	一
一六	昭和十八年六月	同盟グラフ六		冊	一
一七	昭和十九年二月二十九日	受領書（金一五円）	長野連隊司令部→長野市青年団第七師団 第二分隊	狀	一
一八	昭和十九年二月二十九日	領收書	長野地方海軍人事部→青年団第七支部第二 分団高山啓太郎	狀	一
一九	昭和十九年三月	感謝狀（献金につき）	海軍大臣島田繁太郎→青年団第七支部第二 分団代表高山啓太郎	狀	一
二〇	昭和十九年七月一五日	陸普第六一七二号九九式小銃及び短銃取扱法	福原俊夫	冊	一
二一		高野山絵図（仁徳寺版）		鋪	一
二二		武者の図		鋪	一
二三		信濃国善光寺略絵図	松葉軒升 長谷屋久左衛門	鋪	一
二四		衆議院議員姓名録		横半	一
二五		軍隊手帳		冊	一

二六	読売報道写真集	冊	一
二七	通信紙（決六五部隊高山啓太郎）	冊	一
二八―一	郵便往復はがき	狀	二
二八―二	郵便はがき	狀	一
二九	千人針（東部第五〇部隊高千穂隊 高山啓太郎）	狀	一
三〇	止血棒（決六六五部隊佐藤隊）	狀	一
	高山啓太郎		

（新聞）

番号	年 月 日	表 題（内 容）	数 量
三	明治二九年一月一九日	中央新聞（五〇八面）	一
四	明治三六年四月二九日	国民新聞（清国の海軍創設とラング氏の招聘）	一
五一―一	明治三七年一〇月一七日	萬朝報（陸軍の大勝利を祝す 日露陸軍の戦闘において）	一
五一―二	明治三七年一〇月二〇日	萬朝報（クロパトキとステッセル 戦争に現れる露人の気風）	一
五一―三	明治三七年一〇月二三日	萬朝報（政党の合同成るべきか）	一
五一―四	明治三七年一〇月二九日	萬朝報（戦争と青年〔中〕）	一
五一―五	明治三七年一〇月三一日	萬朝報（露は列国干渉を希望せざる乎）	一
七一―一	昭和一二二年七月一日	東京日日新聞号外（北支の形勢・遂に重大化 撤退協定を裏切り支那軍又も不法進撃）	一
六一―一	昭和一二二年八月一日	報知新聞号外（軍事大権を蔭に一任）	一
六一―二	昭和一二二年八月一日	報知新聞（五面・六面）	一
九一―一	昭和一二二年八月一日	名古屋新聞号外（平津戦線☆決死の写真行 天野本社特派員撮影陸軍省許可済）	一
六一―三	昭和一二二年八月五日	報知新聞号外（軍政部長苦衷を述べ 対日決戦苦難を訴ふ）	二
六一―四	昭和一二二年八月六日	報知新聞号外（全支の軍事を統一し 徹底抗日の氣勢拡大）	一
六一―五	昭和一二二年八月一〇日	報知新聞号外（上海に不祥事突発 保安隊の乱射浴び 無念・大山中尉惨死す）	一
六一―六	昭和一二二年八月一三日	報知新聞号外（皇軍厳然たり！ 残敵に備えて…）	二
八一―一	昭和一二二年八月一三日	読売新聞号外（上海開戦危機迫る）	一
六一―七	昭和一二二年八月一四日	報知新聞号外（我が軍艦遂に砲門を開く 上海にて）	一

七―二	昭和二年八月一四日	東京日日新聞号外（敵飛行隊上海を大爆撃）
六―八	昭和二年八月一五日	報知新聞号外（我が空軍奮戦 敵飛行陣地爆撃 杭州及廣徳）
六―九	昭和二年八月一七日	報知新聞号外（海軍機嘉興 虹橋空襲）
六―一〇	昭和二年八月二二日	報知新聞号外（更に両飛行場を空襲 笕飛行場）
六―一一	昭和二年八月二三日	報知新聞号外（空の肉弾戦！射つべき弾丸も盡き 敵陣目がけて体当り）
八―二	昭和二年八月二三日	読売新聞号外（海軍機の猛威 壮絶！空の肉弾戦 上海・南京・揚州・滁州にて）
七―三	昭和二年八月二三日	東京日日新聞号外（上海戦局・愈々第二期戦へ）
一〇―一	昭和二年八月二三日	東京朝日日新聞号外（海軍機昨夜長翔して月面下に南京空襲）
六―一二	昭和二年八月二四日	報知新聞号外（激戦相次ぐ上海）
七―四	昭和二年八月二四日	東京日日新聞号外（我軍の上陸作戦進捗 上海、敵の全線大動揺）
六―一三	昭和二年八月二五日	報知新聞号外（爆煙漲る上海戦線）
七―五	昭和二年八月二六日	東京日日新聞号外（敵全軍を挙げて移動上海戦線）
六―一四	昭和二年八月二七日	報知新聞号外（陸軍機も上海に出動す）
七―六	昭和二年八月二七日	東京日日新聞号外（壮烈！弾雨下の敵前上陸 廿三日上海にて）
六―一五	昭和二年八月二九日	報知新聞号外（八達嶺突破従軍記）
七―七	昭和二年八月二九日	東京日日新聞号外（壮烈無比南苑戦の華 部隊長の遺命体し）
六―一六	昭和二年八月三〇日	報知新聞号外（のびるソ連の触手支那不可侵条約締結）
七―八	昭和二年八月三〇日	東京日日新聞号外（重傷屈せず前進号令 壮烈！倉永部隊長戦死す）
一〇―二	昭和二年八月三〇日	東京朝日日新聞号外（黒雲を衝き閃光交錯 揚子江下流方面で敵前上陸）
六―一七	昭和二年九月一日	報知新聞号外（四飛行場爆滅 海軍機の支那大空襲）
八―三	昭和二年九月一日	読売新聞号外（呉淞砲台陥落！日章旗翻）
七―九	昭和二年九月二九日	東京日日新聞正午版（敵の遺棄死骸だけで三千余 保定占領）
七―一〇	昭和二年一〇月七日	東京日日新聞正午版（閘北の拠点・三義里確保）
七―一一	昭和二年一〇月一七日	東京日日新聞号外（騎兵斥候の敏捷 工兵隊の神技作業）
六―一八	昭和二年一〇月二八日	報知新聞号外（閘北に揚げる凱歌の裡 偲ぶ陸戦隊苦闘の跡）
六―一九	昭和二年十一月二日	報知新聞号外（上海南市南翔 完全に占拠）

六―二〇	昭和二年一月一七日	報知新聞号外（重慶へ突如遷都 軍事機関を除き諸機関奥地へ）	一
六―二一	昭和二年一月二〇日	報知新聞号外（大本營設置 二十日陸海軍両省発表）	一
八―四	昭和三年五月一九日	読売新聞号外（遂に徐州城落つ 城壁に日章旗揚る）	一
六―二二	昭和三年六月三日	報知新聞号外（陸軍大臣更迭）	一
六―二三	昭和三年七月二日	報知新聞（ソ連ゲ・ペ・ウ極東長官 リュシコフ大将亡命）	一
六―二四	昭和三年七月三日	報知新聞（リュシコフ大将の手記公表）	一
六―二五	昭和三年七月七日	報知新聞（けふぞ！輝く聖戦一周年）	一
六―二六	昭和三年七月七日	報知新聞（地図）	一
八―五	昭和三年七月二八日	読売新聞号外（支那事変第二回論功行賞発表 輝く二千三百餘勇士）	一
七―一二	昭和四年二月一〇日	東京日日新聞号外（皇軍海南島上陸）	二
一―二一	昭和四年五月二四日	信濃毎日新聞夕刊（独伊親善同盟協定の内容）	二
一―二二	昭和四年五月三十一日	信濃毎日新聞（第三面・六面）	一
九―二	昭和四年九月三日	名古屋新聞号外（対独戦線布告 イギリス起つ）	二
一―一	昭和三年一月一三日	毎日新聞（東京裁判 廿五被告に断罪下る）	一
一―一二	昭和三年一月一四日	毎日新聞（吉田首相月末に解散を断行か）	一
一―一三	昭和三年二月二四日	毎日新聞（七戦犯の絞首刑執行）	一
三―一	平成七年三月二二日	信濃毎日新聞夕刊（オウム真理教強制捜査）	一

水内郡

長野市柳原

市川家文書

市川家文書解題

市川家文書は平成一〇年（一九九八）に購入した文書で、総数は九五件、一〇七点。

文書は水内郡布野村の地方文書、市川家の金銭出納帳を中心とした私文書の二つに大別される。

布野村は長野市東部、千曲川左岸の自然堤防に立地した集落で、江戸時代を通じて松代領。村高は「慶長打立帳」・「正保郷村帳」・「元禄郷帳」では三二八石余、「天保郷帳」では四一・一石余である。安政三年（一八五六）の領内村々家数留に家数六九とある。明治九年（一八七六）中俣村と合併して柳原村となり、同二年村山村・小島村と合して柳原村と称した。明治七年の戸数は七三戸、三四人。

市川家は郡誌等によると、幕末の市川金兵衛が布野村の名主（文久元年）と副区長（明治五年）を勤めている。市川栄左衛門は副戸長（明治七年）を、市川英三は上水内郡会議員（明治三六年）をそれぞれ歴任している。

市川家文書の特徴は、市川家の金銭出納帳にある。表題はさまざまだが、弘化三年（一八四六）一二月の諸差引覚帳（No.三五）を最古とし、小夫出入覚帳（No.一）、役用日記控帳（No.四八）、貨幣出入控帳（No.四九）、諸幣進退簿（No.三二）、歳入出記入帳（No.一八）など大正四年まで断片的に残されている。そのうち、明治三年（一九〇二）の「歳入出記入帳」（No.一八）の記録の一部が表一である。残念ながら、総収入、総支出額はわからないが、個別の出納記録の後、租税の納入・個人別の貸付記録・墓地清掃費・区費立替金覚が記入されている。当時の物価や、祝儀・不祝儀の額、西洋文物の導入の様子などがわかる好資料である。

本文書では、幕末期の地頭、鎌原伊野右衛門（司馬）、立田栄水（玄道）、藤井浅右衛門（喜内）の三人の年貢小役名寄帳がまとまって残されている。松代藩では近世を通じて地方知行が行なわれ、布野村では寛文元年（一六六一）に六人、享保七年（一七二二）には九人の地頭（土地を給付される家臣）の給所が混在していた。三人の文久年中の石高はそれぞれ、鎌原伊野右衛門高四〇〇石、立田栄水一六〇石、藤井浅右衛門一〇〇石である。こうした各地頭の知行地の管理と貢租徴収の責任を負ったのが村内から選ばれた蔵元である。市川金兵衛は鎌原、立田、藤井三名の蔵元を兼ねていた（No.五八、六五、七四）。嘉永元年（一八四八）の三人の年貢小役名寄帳を比較して見ると表二のようになる。全体の約三割にあたる百姓八人が三人の地頭に共通し、特定の地頭に強く隷属するというよりも、地頭一般に属する形をとる。松代藩の場合、地頭の知行地は領内の里方、山方に分けて宛てがわれ、同一村内でも複数の地頭の知行地が複雑に入り組み、知行地替えなどにより、地頭の権限の弱体化が図られていることが知られている。

また、No.九一、九二、九三、九四は長仙講、長命講など寺を中心とした無尽講の資料である。長命寺は、浄土真宗本願寺派で、山号は足立山。開基の西念坊道祐は信濃井上氏の出身で、二八歳の時越後国五智で親鸞の弟子となり、武蔵国足立郡野田に一寺を創建した。寺伝によると、三世の時長野市駒沢（古里）に移り、七世の時布野に移って、元禄十二年（一六九九）布野村の南にある南堀村に移った。旧寺内に来迎寺、長仙寺、西敬寺の三寺がある。

No.九〇の長仙講記事によると、明治四〇年（一九〇七）一月二〇日、長仙寺住職・太田界道は、自らを發起人、市川英三他一六人を發起引受兼世話人とし、長仙講設立協議会を開いた。そこで総寄金一五五〇円、口数一五五本、一組の糶金（せうきん）を三〇〇円とし、一口の掛金を一円と決めている。同年一月三〇日から講員の募集を始め、二月二二日までに長野市北部を中心に一三一本が集まった。明治四〇年三月一四日に長仙寺本堂で初会を開き、開会を三月一四日、一〇月一四日の年二回と決め、規約と市川英三ら一六名を世話人に承認した。その後資料には各会での落札者と手取金、掛金の集金状況、証書の預かり人、事務経費の歳入出記録を大正九年まで記している。こうした相互扶助の金融機関として古い歴史をもつ無尽は、地縁・血縁をたよりに広く行われ、一般に信用組合登場以前の庶民金融方法として重要な役割をはたした。

表一 明治三十五年 市川家の出納記録 「歳入出記入帳」（No.一八）より作成

三月一日	15 銭	保書籍代	三月一九日	62 銭 5 厘	□□□
4 銭	保散髪代	三月二二日	45 銭	筆墨	
15 銭	玉子 10 ケ	50 銭	養蚕祭寄附		
1 円 75 銭	巻たばこ	三月六日分	40 銭	収入印紙代	
22 銭	パン 2 斤	17 銭	足駄 1 足		
24 銭 5 厘	下駄 2 足	2 円 10 銭	ハンケチ 1 枚		
三月一日	20 銭	三月一八日	30 銭	横田ノ法事ニ付キ香料	
1 円 21 銭	塚本法礼	53 銭	横田へ往復汽車賃		
但 1 束	松葉 22 束	三月二〇日	2 円	婚礼栗田定右衛門へ祝儀	
5 銭 1 厘	松葉 22 束	3 円	婚礼栗田饒別		
三月一五日	1 円 5 銭	35 銭	状袋 200 枚代		
慶作事物払	32 年ノ分	三月二二日	10 銭	雑費	
1 円 5 銭		三月二三日	96 銭	下駄 1 足	
13 円 45 銭	与市郎江差引残金渡	27 銭	大川源二郎婚礼ニ付キ金		
三月一八日	8 円 24 銭 3 厘				
英三入場費	母小使				
1 円					
三月一〇日分					
7 円 76 銭	宮澤助太郎氏発起無尽之				
掛第 1 回分	庭鳥代				
2 円 70 銭					
			</		

4月一三日	30銭	高野政善一人	4月一七日	13銭	帰り馬車賃	4月二五日	1円	母小使	5月一七日	22銭	保草履及小使
4月一四日	4月一四日	1円10銭	麴10枚	1円25銭	用箋紙千枚代	4月二六日	15銭	収入印紙	5月二二日	39銭	長野へ往復人力賃
32銭	伊那ノ薬屋払ヒ	66銭3厘	豆腐19丁半代	30銭	小玉へ往復汽車賃	5月三三日	65銭	硝子3枚代	5月二二日	2円	第2期赤十字社年
4月一五日	20銭	本坊永代経	1円22銭4厘	24日分長野より人力賃	5月三三日	22銭	村山黒岩勝次郎へ	5月三三日	2円	分	抛金良造及びきよ
20銭	菓子	ソバ粉及手間賃	4月分新聞代	55銭	土地台帳用紙100枚	5月三三日	吊料	5月三三日	68銭	品々	
4月一七日	40銭	高野政善	4月分新聞代	54銭	桑苗150本	5月一三日	35銭	時計ノ紐1ヶ	5月一三日	26銭	菓子
3円	茶碗交換	中皿交換	3円	おみき別所行小使	5月一三日	9銭	折釘6本代	5月二三日	50銭	人力賃	
70銭	法事用アゲ及	ギセ口類品々代	10銭2厘	村会日当60銭	5月二二日	15銭	散髪その他品々	5月二三日	43銭	品々	
5円78銭	法事用アゲ及	ギセ口類品々代	酒代70銭2厘	残金	5月二二日	24銭	孝男へ靴及足袋	5月二六日	50銭	人力賃	
4月一一日分	36銭5厘	小玉へ土産	30銭	里いも種2貫	5月一六日	32銭	保授業料	5月二六日	1円	およう	
4月一三日	1円60銭	能楽鑑賞費	5円	粗桑100束代戸	5月一六日	14銭	保本代	5月二四日	54銭	新聞代	
10銭	散髪	界常同断	5円50銭	谷金治へ払う	5月一六日	20銭	保小使2度	5月二四日	74銭	大室医師薬代	
15銭	印紙代	西敬寺同断	3円	おみき小使	5月四日	30銭	中又より子守の札	5月二四日	10銭	雑費	
76銭	印形木製4ヶ代	来迎寺同断	3円42銭5厘	柴代	5月七日	7円	良造送金内3円5	5月二八日	75銭	菓子土産分	
4円	コウモリ傘1本	役僧2人	50銭	売茶	5月九日	50銭	学校入学試験料	5月二八日	22銭	下駄修繕料	
7銭	巻タバコ	セメント5斤	1円	水油3升	5月一七日	14銭	横田へ見舞菓子箱	6月二日	5円	倉石定右衛門氏へ	
4月一四日	39銭5厘	法事用朱蠟及大蠟	1円	杉八分板	5月一七日	84銭	横田行キ汽車賃弁	6月二日	73銭	口のり65束	
32銭	法事用小右衛門紙	200枚	1円42銭	呉服物類	5月一四日	15銭	横田行キ汽車賃弁	5月二九日	13円	6月分学資良造へ	
90銭	大盆1枚	桑苗280本	62銭	良造学資送金5月分	4月二一日分	22銭	前嶋先生人力賃	5月三〇日	10銭	送金ス	
8円67銭	生命保険金	須田へ収メ	10円	右為替料	4月二一日分	32銭	血の薬4袋代	5月三〇日	2円50銭	5月分孝男養育料	
55銭	八種香1袋	菓子4斤	1円11銭5厘	河原田和	5月二〇日	20銭	戸籍謄本料	5月三〇日	14銭	菓子1斤	
1円70銭	まんじう680ヶ		2円50銭	蔵へ預金利子払	5月二二日	20銭		5月三〇日	54銭	大室医師へ薬代	

五月三十一日 葉書100枚代
30銭 石渡竹内喜左衛門へ吊料
50銭 茄子苗200本代小島田村
六月三日 孝男二菓子代
10銭
六月五日 鯛1尾
84銭
六月七日 横田吉田江土産ま
1円 んじう
32銭 みの2ヶ
1円25銭 桑苗5百本代
徳永氏ニ払う
3円 掛物1本代
六月八日 5円97銭5厘 三ツ休ミ
蚕兒籠15枚 水野
五右衛門ヨリ買入
代
六月八日 大室氏へ菓子
17銭 大室氏へ菓子代
86銭 大室氏へ菓子代
70銭 大室氏へ菓子代
15銭 大室氏へ菓子代
10銭 大室氏へ菓子代
1円 大室氏へ菓子代
15銭 大室氏へ菓子代
六月九日 石油1升
90銭 安太郎見舞菓子
25銭 メンパ1ヶ
7銭5厘 保本代
30銭 売菓代
10銭

六月一日 小島次郎へ旅費(雇
50銭 用人)
六月二日 保シヤッポー
85銭 栗田行き入費
35銭 西洋洗濯代
43銭 1円50銭 銭收入印紙代
2円75銭 東町松本芳太
郎へ差引勘定尻払
ヒ32年ヨリ35年5
月迄
20銭 巻タバコ
30銭 中村甚左衛門土産
14銭 鐮柄1丁代
10銭 旗1本(忠男分)
50銭 筆及墨
六月一四日 54銭 茶1斤代
9銭 状袋100枚代
10銭 端書10枚
10銭 散髪
六月二三日 1円43銭 下駄1足
六月二五日 3円42銭 100円ノ利子4
月1日ヨリ6月4
日迄分
9円36銭 3百円利子4
月14日より6月30
日迄分
30銭 鍼力(ブリキ)ノ
水入桶1ヶ
54銭 6月分新聞代
六月二五日 2円50銭 吉田おつる雇

六月二八日 賃23日分
50銭 まんじう小玉江老
母ノ土産
18銭 右人力賃
六月二九日 36銭 売菓
65銭 内山筋1束
10銭 人力賃
20銭 菓子
22銭 麻養2本
35銭 天秤棒
六月三〇日 3円25銭 越後長蔵雇賃
17日ヨリ29日迄13
人分
24銭 糍2枚
1円 田植人足4人分
10銭 長野行雑費
1円4銭5厘 瀧沢政太
郎へ利子ノ払ヒ
21銭 売菓2服おいと分
小玉へ支払ヒ
28銭 小玉へ土産
7円50銭 竹内喜左衛門
より預り金ノ利子
松34年10月より本
日迄元金百円ノ利
子
七月一日 13円 7月分学資良造へ
送金
10銭 右送金料
112円9銭 1月1日より
6月30日迄銀行出
勤費用

七月二日 40銭 名刺百枚代
七月四日 3円18銭5厘 呉服物品々
七月五日 58銭 茶半斤
七月八日 12銭 十七殿江見舞
七月一〇日 30銭 保授業料
30銭 品々
七月二〇日 15銭 売菓
30銭 中野久治より妻お
せち様へ礼
2円50銭 百円ノ利北信
銀行へ払
9円12銭 250円利北信
銀行へ払
20銭 菓子
七月二三日 7円17銭 宮澤助太郎氏
第3回無尽掛金
31銭 見舞菓子
27銭 茶半斤横山へ土産
20銭 人力賃
2円50銭 6月分孝男養
育料
七月一四日 2円21銭 19銀行へ利子
支払3百円5百円
の2口分
8円45銭 生命保険後半
20銭 年分 人力賃

22銭 タンサン1袋
七月一四日 8円10銭 タバコ30玉代
20銭 雑費
35銭 帰リ人力賃
七月一八日 17円50銭 長仙寺昇進ニ
付キ法衣奉賀金
七月一四日 45銭 おまつ人力賃
2円 おまつ人力賃
七月一八日 5円 良造小使
七月二〇日 65銭 おいと人力品々
30銭 保小使2度分
七月二四日 1円 長沼霊山寺奉賀
七月二七日 54銭 新聞代
七月三〇日 20銭 丑正月法礼
50銭 玉子代
20銭 電報料
七月二四日 20銭 大川安太郎法事香
料
(以下略)

表2 各地頭と所属の百姓

鎌原伊野右衛門		立田楽水		藤井浅右衛門	
一高20石	御高辻	一高30石	御高辻	一高30石	御高辻
田 高 8石8升 5合		田 高 11石 5合		田 高 14石4斗8升2合	
畑 高 1石9斗1升5合		畑 高 3石9斗9升5合		本口粃 35俵3斗9升9合8夕	
ノ10石	御借高	ノ15石	御借高	畑 高 15石5斗1升8合	
残 高 畑高10石		残 高 田高5石		本口粃 30俵 2升4合5夕	
本口粃 19俵1斗8升2合		本口粃 12俵1斗8升		合 65俵4斗2升4合5夕	
		畑高10石			
		本口粃 19俵1斗8升2合			
		合 31俵3斗6升2合			
・金 兵 衛 9斗8升2合2夕		・金 兵 衛 2石9斗6升2合		・金 兵 衛 2石3斗4升6合	
・伊 兵 衛 1石 4升4合		・伊 兵 衛 8斗2升9合		・伊 兵 衛 6斗4升	
・又右衛門 1石6斗2升5合		・金左衛門 1石8斗5升		・中野治郎兵衛 1斗5升6合7夕	
・久 兵 衛 4斗1升		・又右衛門 3石6斗 3合		・金左衛門 8斗5升7合	
・彦左衛門 2石3斗2升2合3夕		・久 兵 衛 3斗		・清右衛門 9斗2升	
・喜左衛門 2斗6升4合		・彦左衛門 4石1斗 9合3夕		・又右衛門 3斗1升9合	
・久 三 郎 4斗3升2合		・清右衛門 6斗9升6合		・喜左衛門 1石2斗3升4合	
・重 助 3斗4升		・喜左衛門 3石4斗5升9合		・富 藏 1石 1升4合	
・富 藏 3斗9升1合		・重 助 2斗9升3合		・文左衛門 1斗8升	
・増 五 郎 2斗2升8合		・富 藏 7斗4升9合		・増 五 郎 1石2斗 7合	
・重 兵 衛 5斗6升3合		・仁右衛門 3斗5升2合		・治左衛門 3斗3升2合	
・佐 兵 衛 1石9斗1升2合		・[又右衛門] 4斗1升8合		・佐 兵 衛 1石3斗2升	
・藤 兵 衛 1石5斗4升 8夕		・[久兵衛] 3升		・清 六 9斗8升3合	
・清 六 3斗2升8合		・文右衛門 4斗2升8合		・五郎兵衛 1石5斗	
・五郎兵衛 1石2斗7升2合4夕		・彦左衛門 1斗4升4合		・忠 作 3斗9升	
・政右衛門 2斗9升3合		・佐 兵 衛 6斗2升7合		・新 十 郎 7石1斗7升8合	
・新 十 郎 1石2斗		・万 藏 9升6合		・和 兵 衛 3斗8升	
・与 助 1斗1升7合		・藤 兵 衛 1斗6升3合		・善 之 助 1石8斗2升	
・瀬左衛門 1石3斗 4夕		・新 兵 衛 8斗7升3合		・庄 五 郎 5斗5升2合	
・吉 之 丞 4斗1升4合		・清 六 1斗6升6合		・伊左衛門 1石2斗 5合	
・惣 四 郎 2斗		・忠 兵 衛 1石 6升3合		・弥 助 3石9斗6升7合	
・伊左衛門 3斗1升6合9夕		・文 治 1石3斗4升 7夕		・半 兵 衛 2斗6升2合3夕	
・弥 助 4斗5升1合		・新 十 郎 5石2斗		・庄右衛門 1石3斗3升	
・半 兵 衛 1石7斗8升9合		・与 助 1斗7升6合		・喜 代 治 8升4合	
・喜 十 郎 2斗6升4合		・瀬左衛門 1斗 6合		・太 兵 衛 3斗9升3合	
		・伊左衛門 6斗8升5合			

鎌原・立田・藤井 年貢小役名寄帳 (No.58, 73, 65) より作成

市川家文書目録（一九九八・C・三）

番号	年 月 日	表 題（内 容）	差出人・受取人	形態	数量
五三	天保六年一二月	鎌原司馬様御年貢御小役名寄帳	布野村御蔵元栄左衛門	横帳	一
五四	天保七年一二月	鎌原司馬様御年貢御小役名寄帳	布野村御蔵元栄左衛門	横帳	一
四四	天保八年一二月	田畑小作入覚帳	栄左衛門	横帳	一
五五	天保八年一二月	鎌原司馬様御年貢御小役名寄帳	布野村御蔵元栄左衛門	横帳	一
三五	弘化三年一二月	諸指引覚帳	市川金兵衛	横帳	一
四五	弘化三年一二月	田畑小作入覚帳	金兵衛	横帳	一
六三	弘化三年一二月	藤井喜内様御年貢御小役名寄帳	御蔵元金兵衛	横帳	一
六九	弘化三年一二月	立田楽水様御年貢御小役名寄帳	御蔵元金兵衛	横帳	一
五六	弘化四年一二月	鎌原九郎右衛門様御年貢御小役名寄帳	布野村御蔵元金兵衛	横帳	一
七〇	弘化四年一二月	立田楽水様御年貢御小役名寄帳	御蔵元金兵衛	横帳	一
五七	嘉永元年一二月	鎌原伊野右衛門様御年貢御小役名寄帳	布野村御蔵元金兵衛	横帳	一
六四	嘉永元年一二月	藤井喜内様御年貢御小役名寄帳	御蔵元金兵衛	横帳	一
七一	嘉永元年一二月	立田楽水様御年貢御小役名寄帳	御蔵元金兵衛	横帳	一
一	嘉永二年正月吉日	小夫出入覚帳	市川金兵衛	横帳	一
七二	嘉永二年一二月	立田楽水様御年貢御小役名寄帳	御蔵元金兵衛	横帳	一
二	嘉永三年正月	小夫出入覚帳	市川金兵衛	横帳	一
七三	嘉永三年一二月	立田楽水様御年貢御小役名寄帳	御蔵元金兵衛	横帳	一
五八	嘉永四年一二月	鎌原伊野右衛門様御年貢御小役名寄帳	御蔵元金兵衛	横帳	一
六五	嘉永四年一二月	藤井浅右衛門様御年貢御小役名寄帳	御蔵元金兵衛	横帳	一
三	嘉永五年正月	小夫出入覚帳	市川金兵衛	横帳	一
五九	嘉永五年一二月	鎌原伊野右衛門様御年貢御小役名寄帳	御蔵元金兵衛	横帳	一

四 嘉永六年正月 小夫出入覚帳 市川金兵衛 横帳 一

三六 嘉永六年二月 諸指引出入覚帳 金兵衛 横帳 一

六〇 嘉永六年二月 鎌原伊野右衛門様御年貢御小役名寄帳 御藏元金兵衛 横帳 一

七四 嘉永六年二月 立田楽水様御年貢御小役名寄帳 御藏元金兵衛 横帳 一

五 嘉永七年正月 小夫出入覚帳 市川金兵衛 横帳 一

六一 嘉永七年二月 鎌原伊野右衛門様御年貢御小役名寄帳 御藏元金兵衛 横帳 一

六六 嘉永七年二月 藤井浅右衛門様御年貢御小役名寄帳 御藏元金兵衛 横帳 一

七五 嘉永七年二月 立田玄道様御年貢御小役名寄帳 御藏元金兵衛 横帳 一

六二 安政二年二月 鎌原伊野右衛門様御年貢御小役名寄帳 御藏元金兵衛 横帳 一

七六 安政二年二月 立田玄道様御年貢御小役名寄帳 御藏元金兵衛 横帳 一

八一 安政三年正月 御本堂再建材木請取元帳 足立山 金兵衛 横帳 一

四六 安政三年二月 田畑小作入覚 金兵衛 横帳 一

六 安政四年正月 小夫出入覚帳 市川金兵衛 横帳 一

七七 安政四年二月 立田玄道様御年貢御小役名寄帳 御藏元金兵衛 横帳 一

七 安政五年正月 小夫出入覚帳 市川金兵衛 横帳 一

八七 午(安政五年) 新八殿材木書立帳 市川 横帳 一

八 安政六年正月 小夫出入覚帳 市川 横帳 一

六七 安政六年二月 藤井浅右衛門様御年貢御小役名寄帳 御藏元金兵衛 横帳 一

八九 申(万延元年) 一二月一二日 (材木覚) 北のや新八↓長命寺御世話人衆中 横帳 一

三七 万延二年正月 諸指引出入帳 市川 横帳 一

七八 文久元年二月 立田楽水様御年貢御小役名寄帳 御藏元金兵衛 横帳 一

九 (文久元年正月) (小夫出入覚帳) 市川金兵衛 横帳 一

一〇 文久二年正月 小夫出入覚帳 市川金兵衛 横帳 一

六八 文久二年二月 藤井様御無尽鑑金割合帳 御藏元金兵衛 横帳 一

七九	文久二年一二月	立田樂水様御無尽帳	御藏元金兵衛	横帳	一
三八	文久三年正月	諸指引出入帳	市川住	横帳	一
八三	文久三年一二月吉日	辰年より戌年迄材木出し覚	神代材木屋治郎右衛門―南堀村長命寺 様御世話人中様	横帳	一
八二	文久三年一二月改	所々より出シ御材木控	棟梁	横帳	一
一一	文久四年正月	小夫出入覚帳	市川金兵衛	横帳	一
八五	文久四年正月二二日改	棟梁差引勘定帳	足立山世話方	横帳	一
四七	文久四年二月調置	奉加寄金調帳		横帳	一
一二	元治二年正月	小夫出入覚帳	市川金兵衛	横帳	一
一三	慶応二年正月	小夫出入覚帳	市川金兵衛	横帳	一
一四	明治二年正月	小夫出入覚帳	市川金兵衛	横帳	一
三九	明治二年正月	諸差引覚帳	市川金兵衛	横帳	一
一五	明治三年正月	小夫出入覚帳	市川金兵衛	横帳	一
四〇	明治三年正月	諸差引覚帳	市川金兵衛	横帳	一
一六	明治四年正月	小夫出入覚帳	市川金兵衛	横帳	一
四一	明治四年正月	諸差引覚帳	市川金兵衛	横帳	一
四八	明治四年正月	役用日記控帳	市川金兵衛	横帳	一
一七	明治五年正月	小夫出入覚帳	市川金兵衛	横帳	一
四二	明治五年正月	諸差引控帳	市川金兵衛	横帳	一
四三	明治六年二月	諸差引控帳	市川金兵衛	横帳	一
四九	明治六年二月	貨幣出入控帳	市川金兵衛	横帳	一
五〇	從明治 七年一月〜至同八年二月	貨幣進退録	市川氏	横帳	一
三〇	從明治 八年二月〜至	諸幣進退記	市川堯春	横帳	一
三一	從明治一〇年二月〜至明治一一年二月	諸幣進退簿	市川敬直	横帳	一
三二	從明治一二年二月五〇〜至明治一二年二月	諸幣進退簿	市川	横帳	一

三三 從明治一八年二月ゝ至明治一九年二月 諸幣進退簿 市川栄左衛門 横帳 一

三四 從明治一九年二月ゝ至明治二〇年二月 諸幣進退簿 市川栄左衛門 横帳 一

一八 自明治三五年二月ゝ至明治三六年二月 歳入出記入帳 市川英三 横帳 一

一九 自明治三六年三月ゝ至明治三七年二月 歳入歳出記入帳 市川英三 横帳 一

二〇 自明治三七年三月ゝ至明治三八年二月 歳入歳出記入帳 市川英三 横帳 一

二一 自明治三八年三月ゝ至明治三九年二月 歳入歳出記入帳 市川英三 横帳 一

二二 自明治三九年三月ゝ至明治四〇年二月 歳入歳出記入帳 市川英三 横帳 一

二三 從明治四〇年三月ゝ至明治四一年二月 歳入出記臆帳 市川英三 横帳 一

九〇 從明治四〇年三月 長仙講記事並會計第一番会ヨリ第二四番会迄 冊 一

二四 從明治四二年三月ゝ至明治四三年二月 歳入出記臆帳 市川英三 横帳 一

九一 明治四二年一〇月ゝ 第一号(長仙講各会正金調) 綴 一

二五 明治四三年三月ヨリ明治四四年二月迄 歳入出記入帳 市川英三 横帳 一

二六 明治四四年三月ヨリ明治四五年二月二至 歳入出記入帳 市川英三 横帳 一

二七 從明治四五年三月ゝ至大正二年二月末日 歳入出記入簿 市川英三 横帳 一

二八 從大正二年三月一日ゝ至大正三年二月末日 歳入出記入簿 市川英三 横帳 一

二九 從大正三年三月一日ゝ至大正四年二月末日 歳入出記録簿 市川英三 横帳 一

九二 大正九年ゝ昭和四年 第二長命講既取名簿 冊 一

九三 大正九年ゝ同一二年 長仙講預金通帳 冊 一〇

九四一 大正一一年五月一七日 ハガキ(長命講の件) 松木庄之助、小山寿郎 一通

九四二 大正一三年二月八日 ハガキ(欠席の通知) 関 涉 三、市川忠男 一通

九四三 大正一五年三月二一日 ハガキ(保証人の件) 高田屋軍治、市川英三 一通

九四四 大正一五年六月五日 ハガキ(貸金に関する件) 税 務 署、市川英三 一通

五一 昭和五年(大正一九年)ヨリ昭和六年一月末日 収支記入帳 市川英三 横帳 一

五二 (鎌原伊野右衛門様御無尽覚) 横帳 一

八〇
八四
八六
八八
九〇
九五

(無尽覚)

金銀請取覚扣帳

善光寺材木并金子入料帳

(虹梁等材木作料勘定帳)

(材木覚)

漢詩(貴君浩氣吐・・・)

星垣氏

横帳

横帳

横帳

横帳

(まくり)

一 一 一 一 一

水内郡

長野市安茂里小市

大矢家文書

大矢家文書解題

大矢家文書は、平成六年（一九九四）年十一月、大矢孝太郎氏（長野市安茂里・現在埼玉県浦和市）から当館へ寄贈された主に旧安茂里村会に関する文書の総称で、総数は一四四件、一八〇点。

大矢家のある安茂里小市は犀川の善光寺平への出口左岸に位置し、安茂里山地の南斜面沿いに東西約三キロに広がる街村である。安茂里村は明治九年（一八七六）五月三〇日に平柴・小柴見・久保寺・小市の四カ村が合併して六二七戸、二八二八人の村として発足した。その後明治十二年（一八七九）十二月に平柴組が、同一五年に小柴見組が分離し独立。明治二十二年新たな市町村制の導入にともない、安茂里村・平柴村・小柴見村の三カ村が再度合併し、従来の村が大字となった。このときの戸数は六四九戸、人口は三三三四人。

本文書から大矢孝助は大正一〇年（一九二二）に村会議員に選出され、昭和四年（一九二九）まで二期八年議員を勤めている。また、小市特産の白土の生産・販売を行う「犀沢山白土利用組合」の組合長を勤めている。（No. 一四一）

一 安茂里村会

安茂里村会は明治二十二年（一八八九）四月一日の安茂里村の発足と同時に設置され、村会は村の議決機関として「条例及び規則の制定、町村費で支弁すべき事業、歳入歳出予算、町村税使用料手数料及び夫役現品の賦課徴収」を行うなどの権限を持ち、年一〇回程度開催された（No. 三二「安茂里村会議規則」、No. 一〇八「村条例及び規則謄本」、No. 五五「安茂里村役場事務報告書」）。

村会議員の選挙は等級選挙制で行われた。選挙人（有権者）は村に一年以上住み、地租または直接国税年額二円以上を納める満二五歳以上の男子（戸主）とされた。そのうち、町村税納額の多い方から起算して、町村税総額の半分にあたるものまでが一級選挙人、それ以下のものが二級選挙人にわけられ、各級それぞれが議員の半数づつを選挙する仕組みであった。議員は無給の名誉職で、任期は六年、三年ごとに半数が改選され、その後明治四四年（一九一一）には議員の任期が六年から四年に引き下げられた。大正一〇年（一九二二）には等級選挙制が廃止され、公民権の資格も国税納付の条件が外されて「年齢二五歳以上の男子で、独立の生計を営むもの、二年以来その町村住民たるもの、二年以来その町村の直接町村税を納むるもの」と拡大された。定員については当初は二人（明治二五年の議員数は七人で、一級議員三人、二級議員四人）で発足し、大正六年ごろには一八人となった。

文書の中の「安茂里村役場事務報告書」には、当時の役場の業務内容が記載され、同時に村の概要を知ることができる重要な史料である。大矢家文書には、大正十一年（一九二二）から昭和四年（一九二九）までの事務報告書が残されている（No. 五五、一一、一六、三〇、六八、九五、一五、六四）。この報告書の項目は表一の通りである。役場の業務は収入役以下六名の助役・書記らによって分担されていた（表二）。

二 白土利用組合

小市の北、安茂里山地は裾花凝灰岩層からなっている。裾花凝灰岩は、いまから九百万年前く五百万年前ころ、浅い海底で起こった火山活動によって堆積した地層である。この白土は、平賀源内の『物類品鑑』に「ヤキモノ二用ウル色白キ土」、「信濃水内郡小市村産上品色至テ精白ナリ」と書かれ、最初は陶土として利用された。その後穀物の早搗き粉・金物の磨き砂・陶器の表掛け粉・石筆の材料に利用された。

表1 安茂里村事務報告書にみる役場業務

1 庶務に関する件	ホ 年中主要物産収穫表
イ 大正10年における処理事項の概要	ヘ 養蚕に関する事項
ロ 吏員の異動状況	ト 副業に関する事項
ハ 年末吏員事務分担表	6 戸籍に関する件
ニ 吏員勤務状況及び俸給表	イ 年末戸数人口
ホ 事務の経理状況	ロ 年内における人口異動
ヘ 基本財産増殖并管理状況	ハ 年内における人口異動率
2 議事に関する件	ニ 寄留に関する件
イ 本村会議員氏名	7 兵事に関する件
ロ 開会度数その他会議模様	イ 大正10年徴兵検査受検者員数
ニ 選挙に関する件	ロ 徴兵受検成績表
3 教育に関する件	ハ 入退学者数
イ 教育に関する施設経営状況	ニ 軍人員数
ロ 学務委員氏名	ホ 簡閲点呼に関する事項
ハ 学級編成状況	8 社寺に関する件
ニ 年末における教育及び学校医	9 土地に関する件
ホ 年内における教員異動状況	イ 大正11年1月1日現在における土地
ヘ 教員勤務状況	ロ 大正10年中における出地異動状況
ト 学齢児童の就学及び出席歩合表	ハ 納税者異動状況
チ 高等小学校その他学校在学者調	ニ 本村土地にして他市町民有調
リ 補習学校に関する件	ホ 本村民にして他市町村に所有する土地調
ヌ その他学事に関する件	10 土木に関する件
4 衛生に関する件	イ 大正10年における施設経営事項
イ 種痘に関する事項	ロ その他土木事務に関し特記すべき事項
ロ 「トラホーム」検診に関する事項	11 税務会計に関する件
ハ 伝染病に関する事項	イ 諸税調定一覧表
5 勸業に関する件	ロ 諸税負担調
イ 勸業上の施設経営事項の概要	ハ 臨時出納検査執行に関する顛末
ロ 耕作地反別	ニ その他税務に関する事項
ハ 耕作戸数及び反別	財産明細書
ニ 職業別戸数人口	

明治11年「安茂里村役場事務報告書」(No55)より作成

表2 役場の事務分担表 明治11年「安茂里村役場事務報告書」(No55)より作成

分担事務	職 名	氏 名
学務・勸業	助役	青木 正雄
出納・会計	出納役	大瀬 千治
庶務・議事・兵事・社寺・土地・税務・土木	書記	木内音之進
戸籍・衛生	書記	西村 義人
税務・会計	書記	青木大太郎
税務	書記	青沼 太七

表3 白土生産高 「安茂里村役場事務報告書」より作成

年	白土生産高	平均価格(1駄)	年	白土生産高	平均価格(1駄)
大正11年	90000駄	80銭	大正15年	75000駄	75銭
大正12年	85000駄	75銭	昭和2年	60000駄	75銭
大正13年	90000駄	80銭	昭和3年	200000駄	2銭
大正14年	50000駄	1円	昭和4年	200000駄	2銭

犀沢山白土採掘箇所は、以前は国有であったが、大正一〇年(一九二二)一〇月に払い下げられ、以来種々の理由により採掘を中止していた。大矢孝助は、犀沢山白土採掘及び水利権者の大多数の共有権利者の同意をもって、昭和五年(一九三〇)二月一九日に「有限責任犀沢山白土販売利用組合」を作り、採掘・製造・販売を行い自らは組合長理事を務めた(No.一四一―三、一七)。昭和七年(一九三二)の事業報告書によると(No.一四一―一〇)、組合の資産は四三〇二円四二銭、組合員は二三三人、総益金三二七円二二銭、総損益二六六円九二銭、余剰金五〇四円三〇銭とある。村役場事務報告書の主要物産収穫表にみる生産量は表三の通りである。出荷先は山梨・新潟・秋田・北海道など県外が主な移出先であった。

大矢家文書目録（一九九四・A・一四）

番号 年月日 表題（内容） 差出人・受取人 形態 数量

三二	明治四三年一月一日	長野県上水内郡安茂里村会議規則		縦帳	二
一一〇	大正八年二月	大正八年二月犀川橋新設創立会		縦帳	一
八	大正一〇年五月二十四日	長野県上水内郡安茂里村大正一〇年度歳入出追加予算議案		状	一
三三	大正一〇年七月一八日	大正九年度長野県上水内郡安茂里村小字久保寺部歳入出決算書	安茂里村収入役 大瀬千治 ↓ 安茂里村長 太田庄三郎	縦帳	一
六〇	大正一〇年八月	大正九年度長野県上水内郡安茂里村歳入出決算書	安茂里村収入役 大瀬千治 ↓ 村長 太田庄三郎	縦帳	一
一四三	大正一〇年九月一九日	長野県上水内郡安茂里村大正一〇年度歳入出第三回追加予算議案	安茂里村長	状	一
四四	大正一〇年一〇月一九日	大正一一一年四月一日〜九月三〇日県税戸数割納税義務者各自賦課額議案	安茂里村長 太田庄三郎	縦帳	一
七九	大正一〇年一〇月一九日	長野県上水内郡安茂里村大正一〇年度歳入出第四回追加予算	安茂里村長 太田庄三郎	状	一
一三八	大正一〇年一〇月一九日	領収証（金一円）	公友新報社→大矢	状	一
八〇	（大正一〇年）	大正一〇年度県税営業税雑種税各自賦課額議案		縦帳	一
九	大正一一一年一月三〇日	大正一〇年度県税戸数割追加賦課額等級予算議案		状	二
三五	大正一一一年二月二〇日	大正一一一年度長野県上水内郡安茂里村歳入出予算議案	安茂里村長 太田庄三郎	縦帳	一
五五	大正一一一年二月二十四日	大正一一一年安茂里村役場事務報告書	安茂里村長 太田庄三郎	縦帳	一
五九	大正一一一年二月二十四日	伝染病院隔離病舎組合加入之件	安茂里村長 太田庄三郎	状	一
七三	大正一一一年二月二十四日	上水内郡安茂里村小字久保寺部大正一一一年度歳入出予算書	安茂里村役場	縦帳	一
一〇八	大正一一一年二月二十五日	村條例及規程謄本	安茂里村役場	冊	一
四九	大正一一一年二月二十七日	大正一一一年度長野県上水内郡安茂里村歳入出予算決議案	安茂里村長 太田庄三郎	縦帳	一
八六	大正一一一年三月一七日	号外県税戸数割順時調査員参集方通牒	安茂里村長→県税戸数割臨時調査員	状	一
一四四	大正一一一年三月三〇日	長野県上水内郡安茂里村大正一一〇年度歳入出第五回追加予算議案		状	一

四	大正一一年七月一四日	大正一一年度長野県上水内郡安茂里村県税戸数割賦課額予算決議書	安茂里村村長太田庄三郎	縦帳	二
六三	大正一一年八月二〇日	大正一〇年度長野県上水内郡安茂里村歳入出決算書	安茂里村収入役 大瀬千治 ↓村長 太田庄三郎	縦帳	一
一二三	大正一一年八月二六日	(小市分教場棟上式開催通知)	安茂里村長 太田庄三郎 ↓大矢孝助	状	一
一〇	大正一一年一〇月二〇日	長野県上水内郡安茂里村大正一一年度歳入出追加更正予算書		縦帳	一
一二	大正一一年一〇月二〇日	大正一一年度県税戸数割表	安茂里村長太田庄三郎	縦帳	一
八一	大正一一年一〇月二〇日	大正一〇年度長野県上水内郡安茂里村小字久保寺部歳入出決算書	安茂里村長太田庄三郎	縦帳	一
七六	大正一二年一月二三日	長野県上水内郡安茂里村大正一一年度第三回歳入出追加予算	安茂里村長太田庄三郎	状	一
一三三	大正一二年二月一九日	(安茂里村会開会通知)	安茂里村長 太田庄三郎 ↓村会議員	状	一
七二	大正一二年二月二〇日	大正一一年度長野県上水内郡安茂里村歳入出予算議案	安茂里村長太田庄三郎	縦帳	一
一二一	大正一二年二月二〇日	(甲第五〇号村会開会通知)	安茂里村長↓村会議員	状	一
二一	大正一二年二月二六日	大正一二年安茂里村役場事務報告書	安茂里村長太田庄三郎	縦帳	一
八二	大正一二年二月二八日	大正一二年度長野県上水内郡安茂里村歳入出予算決議案	安茂里村長太田庄三郎	縦帳	一
一一七	大正一二年二月二八日	一時借入金議案	安茂里村長太田庄三郎	状	一
一一八	大正一二年二月二八日	久保寺部制廃止案	安茂里村長太田庄三郎	状	一
一二二	大正一二年四月一二日	(乙第一一五号村会開会通知)	安茂里村長代理助役↓村会議員 大矢孝助	状	一
七八	大正一二年四月一七日	長野県上水内郡安茂里村大正一一年度歳入出第一回追加予算	安茂里村長太田庄三郎	縦帳	一
六六	大正一二年六月二八日	大正一一年度県税戸数割各自納税額予算書	安茂里村長太田庄三郎	状	一
六二	大正一二年二月二五日	大正一一年度長野県上水内郡安茂里村小字久保寺部歳入出決算書	安茂里村収入役 大瀬千治 ↓安茂里村長 太田庄三郎	縦帳	一
六五	大正一二年二月二五日	大正一一年度長野県上水内郡安茂里村歳入出決算書	安茂里村収入役 大瀬千治 ↓村長 太田庄三郎	縦帳	一
九一	(大正一二年)	大正一二年度県税営業税雑種税各自賦課額議案		縦帳	一
一一	大正一三年二月二〇日	大正一三年度長野県上水内郡安茂里村歳入出予算案	安茂里村長太田庄三郎	縦帳	一

一二八	大正一三年二月二二日	村会開会通知	安茂里村長 太田庄三郎 大矢孝助	状	一
一六	大正一三年二月二七日	大正一三年安茂里村役場事務報告書	安茂里村長太田庄三郎	縦帳	一
一〇〇	大正一三年二月二八日	大正一三年度長野県上水内郡安茂里村歳入出予算決議案	安茂里村長大井年栄	縦帳	一
一三	大正一三年三月一〇日	大正一二年度県税戸数割表		状	二
一二六	大正一三年三月	金鵒勲章年金増額請願趣旨書	金鵒勲章年金増額請願本部 事務所―大矢孝助	状	一
一三二	大正一三年五月一三日	(安茂里平坦部吏員会開催通知)	安茂里村長―安茂里村会議員	状	一
五八	大正一三年五月三一日	安茂里消防組設置区域増置変更議案	安茂里村長大井年栄	状	一
六七	大正一三年五月三一日	大正一三年度本村一時借入金議案	安茂里村長大井年栄	状	一
六九	大正一三年五月三一日	歳計現金保管ニ関スル件	安茂里村長大井年栄	状	一
八九	大正一三年七月一四日	大正一三年度県税戸数割各自納額議案	安茂里村長大井年栄	縦帳	一
九二	大正一三年七月一四日	長野県上水内郡安茂里村大正一三年度県税戸数割各自納額決議書	安茂里村長大井年栄	縦帳	一
二八	大正一三年一〇月二七日	大正一三年度県税戸数割隨時納額議決案	安茂里村長大井年栄	縦帳	一
三一	大正一三年一〇月二七日	寄附採納ノ件(水晶塊など)	安茂里村長大井年栄	状	一
七	大正一三年	長野県上水内郡安茂里村大正一三年度第一回歳入出追加予算 (松本忠雄氏への選挙協力依頼)	中郷村 岩間清治―大矢孝助	状	一
一三〇	大正一三年	畑一切出納表		状	一
一三九	大正一三年	大正一三年度県税營業稅雜種稅各自賦課額議案	安茂里村村長大井年栄	縦帳	一
一九	(大正一三年)	大正一四年度長野県上水内郡安茂里村歳入出予算議案	安茂里村長大井年栄	縦帳	一
五	大正一四年二月二三日	大正一四年安茂里村役場事務報告書	安茂里村長大井年栄	縦帳	一
三〇	大正一四年二月二三日	安茂里村條第一一號徵收督促條改正條例	安茂里村長大井年栄	状	一
一〇四	大正一四年二月二三日	大正一四年度長野県上水内郡安茂里村歳入出予算決議書	安茂里村長大井年栄	縦帳	一
三九	大正一四年二月二四日	大正一三年度上小内郡安茂里村歳入出第三回追加予算議案	安茂里村長大井年栄	状	一
一〇二	大正一四年二月二四日	大正一三年度県税營業稅雜稅各自賦課額議案	安茂里村長大井年栄	状	一
四〇	大正一四年三月一六日	県立農学校建築費寄附年度割変更議案	安茂里村長大井年栄	状	一
九〇	大正一四年三月一六日			状	一

一一四	大正一四年三月一六日	寄附金採納ノ件	安茂里村長大井年栄	状	一
四三	大正一四年六月八日	大正一四年度上水内郡安茂里村歳入出追加更正予算議案第一回	安茂里村長大井年栄	縦帳	一
七五	大正一四年六月八日	起債議案	安茂里村長大井年栄	綴	一
五四	大正一四年七月二日	寄附採納議案（児童用雨合羽など）	安茂里村長大井年栄	状	一
八四	大正一四年七月二日	大正一四年度長野県上水内郡安茂里村県税戸数割各自納額議案	安茂里村長大井年栄	縦帳	一
一〇三	大正一四年七月一四日	大正一四年度長野県上水内郡安茂里村県税戸数割各自納額決議書	安茂里村長大井年栄	縦帳	一
五一	大正一四年七月二三日	大正一四年度第一回長野県上水内郡安茂里村歳入出追加更正予算議案	安茂里村長大井年栄	縦帳	一
五三	大正一四年七月二三日	課税率並徴収期更正議案	安茂里村長大井年栄	綴	一
一一〇	大正一四年八月五日	校地拡張諮問ニ関スル意見答申決議	安茂里村長大井年栄	縦帳	一
二〇	大正一四年八月八日	村税徴収期更正議案	安茂里村長大井年栄	状	一
七四	大正一四年八月八日	大正一四年度長野県上水内郡安茂里村歳入出追加更正予算議案第二回	安茂里村長大井年栄	縦帳	一
一四一一〇	大正一四年一〇月二六日	掛金領収證控	丸山吉三丞	切	一
一三五	大正一四年一〇月三一日	犀沢山総出納一覽表		状	一
一四一一九	大正一四年一一月二五日	掛金領収證控	大矢孝助	切	一
一四二	（大正四年）一二月八日	書簡（西本氏よりの返書所持について）	大矢一牧郷御役所 小林英一郎	状	一
一二七	大正一四年一二月一日	書簡（西本氏の手紙及び野取図面について）	牧郷村滞在 小林英一郎 大矢孝助	状	一
一二五	大正一四年一二月二三日	上申書（小市分教場体操場建築について）	学務員 塚田七郎 村長 大井年栄	縦帳	一
二七	大正一四年度	大正一四年県税営業税雑種税各自賦課額決議書		縦帳	一
一八	大正一四年度	大正一四年追加県税営業税雑種税各自賦課額議案		縦帳	一
六	大正一五年一月三〇日	大正一四年度長野県上水内郡安茂里村県税戸数割各人納額議案		縦帳	一
三六	大正一五年二月二五日	大正一五年度長野県上水内郡安茂里村歳入歳出予算議案	安茂里村長大井年栄	縦帳	一
六八	大正一五年二月二五日	大正一五年安茂里村役場事務報告	安茂里村長大井年栄	縦帳	一

九八	大正一五年二月二六日	大正一五年度長野県上水内郡安茂里村歳入歳出予算決議書	安茂里村長大井年栄	縦帳
七一	大正一五年三月六日	大正一四年度長野県上水内郡安茂里村歳入出追加更正予算第四回	安茂里村長大井年栄	縦帳
九三	大正一五年三月六日	(規定第一五号安茂里村納税奨励金交付規定中第二条改正議案)	安茂里村長大井年栄	状
一〇六	大正一五年三月六日	都市計画区域決定二関スル意見答申ノ件	安茂里村長大井年栄	縦帳
一〇七	大正一五年三月六日	発電ノ為ノ裾花川河水使用二関シ諮問ノ件	安茂里村長大井年栄	状
八三	大正一五年六月二八日	青年訓練所設置議案	安茂里村長大井年栄	状
一七	大正一五年七月一四日	大正一五年度長野県上水内郡安茂里村県税戸数割各自納額議案	安茂里村長大井年栄	縦帳
九六	大正一五年七月一五日	大正一五年度長野県上水内郡安茂里村県税戸数割各人納額決議書	安茂里村長大井年栄	縦帳
一〇五	大正一五年七月一五日	大正一五年度長野県上水内郡安茂里村歳入出追加予算(第一回)	安茂里村長大井年栄	縦帳
一四	大正一五年十一月二四日	議第二号大正一五年度長野県上水内郡安茂里村歳入出追加予算	安茂里村村長大井年栄	縦帳
四七	大正一五年十一月二四日	大正一四年度長野県上水内郡安茂里村歳入出決算書	安茂里村収入役 柳澤源三郎 村長 大井年栄	縦帳
七〇	大正一五年度	大正一五年度県税營業税雑種税各自賦課額決議書		縦帳
九九	大正一五年度	大正一五年度県税營業税雑種税各自賦課議案		縦帳
五〇	昭和二年二月二三日	昭和二年度長野県上水内郡安茂里村歳入歳出予算議案	安茂里村長大井年栄	縦帳
四六	昭和二年二月二四日	議第六号安茂里村特別税戸数割條例	安茂里村長大井年栄	縦帳
四八	昭和二年二月二四日	議第五号安茂里村々税賦課徴収規程	安茂里村長大井年栄	縦帳
九五	昭和二年二月二四日	昭和二年度安茂里村役場事務報告書	安茂里村長大井年栄	縦帳
二	昭和二年二月二六日	昭和二年度長野県上水内郡安茂里村歳入歳出予算決議書	安茂里村村長大井年栄	縦帳
四五	昭和二年二月二六日	議第一号大正一五・昭和元年度長野県上水内郡安茂里村歳入出追加予算(第三回)	安茂里村長大井年栄	縦帳
二二	昭和二年六月一〇日	議第一四号昭和二年度県税家屋税賦課之件	安茂里村長大井年栄	縦帳
二六	昭和二年七月二五日	昭和二年度長野県上水内郡安茂里村村税特別戸数割各人納額決議書	安茂里村長大井年栄	縦帳
二九	昭和二年	家屋税賦課議決例	安茂里村長	縦帳
一五	昭和三年二月二〇日	昭和三年安茂里村事務報告	安茂里村長大井年栄	縦帳
二三	昭和三年二月二四日	昭和三年度長野県上水内郡安茂里村歳入出予算議案	安茂里村長大井年栄	縦帳

一九	昭和三年二月二五日	議第四号組合規約變更之件	安茂里村長大井年栄	状	一
五六	昭和三年二月二六日	昭和三年度長野県上水内郡安茂里村歳入歳出予算決議書	安茂里村長大井年栄	縦帳	一
三七	昭和三年三月一九日	議題七号昭和二年年度県税家屋税随時賦課ノ件	安茂里村長大井年栄	縦帳	一
九七	昭和三年三月一九日	議第八号基本財産繰戻年次變更ノ件	安茂里村長大井年栄	状	一
一〇一	昭和三年五月五日	議第一一〇号昭和三年度県税家屋税免除ニ関スル件	安茂里村長塚田佐市	状	一
八八	昭和三年五月一五日	議第一〇号県税家屋税賦課ノ件	安茂里村長塚田佐市	縦帳	一
二五	昭和三年七月二五日	昭和三年度長野県上水内郡安茂里村村税特別戸数割各人納額決議書	安茂里村長塚田佐市	縦帳	一
五七	昭和三年九月一九日	村税課率議案	安茂里村長塚田佐市	状	一
六一	昭和三年九月一九日	基本財産蓄積停止議案	安茂里村長塚田佐市	状	一
八五	昭和三年九月一九日	昭和三年度安茂里村歳入出追加更正予算議案第一回	安茂里村長塚田佐市	縦帳	一
二四	(昭和三年度)	昭和三年度県税営業者各人純益額	安茂里村長塚田佐市	縦帳	一
八七	昭和四年二月二五日	昭和四年度長野県上水内郡安茂里村歳入歳出予算議案	安茂里村長塚田佐市	縦帳	一
九四	昭和四年二月二五日	(議第一〇号昭和四年度村税課率之定について)	安茂里村長塚田佐市	綴	一
六四	昭和四年二月	昭和四年安茂里村役場事務報告書	安茂里村長塚田佐市	縦帳	一
三四	昭和四年七月三〇日	昭和三年度歳入出決算書	上水内郡東部七ヶ村病院組合	縦帳	一
一四一―一八	昭和五年四月三〇日	借地契約書	借地人 大矢孝助―犀開坤村 塩入源作	縦帳	一
一一二	昭和五年六月二一日	沿道各市村寄附決議書及覚書写(善光寺白馬鉄道について)	組合長 大矢孝助	縦帳	一
四一	(昭和五年度)	昭和五年上水内郡平坦部病院組合歳入出決算書	若槻村収入役 田中興喜太	状	一
四二	昭和六年七月二〇日	昭和五年度上水内郡平坦部病院組合決算書提出及び決算終了報告	組合帳 花岡馨	状	二
一四一―一八	昭和七年五月二五日	支払命令	債権者 大矢孝助―債務者 伊藤浦太郎	縦帳	一
一四一―一二	昭和七年六月二日	支配命令に対する異議申立書	債務者 伊藤浦太郎―長野区裁判所判事 高橋作兵衛	縦帳	一

一四一	昭和七年七月八日	判決（無尽講年賦金の支配事件について）	長野区裁判所判事 高橋作兵衛↓原告 大矢孝助・被告 伊藤浦太郎 他二名	縦帳	一
一四二	昭和七年	有限責任犀澤山白土販売利用組合第二年度事業報告書	組合長手持	状	二
一一一	昭和八年一月一九日	昭和七年度陶土売上収入支出控帳		綴帳	一
一三四	昭和八年二月五日調	陶土販売駄数及金額算		綴帳	一
一二九	昭和九年一月一七日	（小市巡查駐在所迄出頭願）	小市巡查駐在所↓犀澤山白土販売利用組合長 大矢孝助	状	一
一四一	昭和一〇年一〇月六日	証明書（犀沢山ノ共有権利者に有らず）	川中島村山崎栄夫	状	一
一四一	昭和一〇年一二月八日	委任状（白土販売権限につき）	犀沢山白土販売利用組合↓塚田喜人 他二名	状	一
一四二	昭和一〇年	借入金証書（金五〇〇円）	塚田佐作他一七名	縦帳	一
一三一	昭和一一年二月二四日	呼出費用納付催告書	東京控訴院第三民事部↓控折代理人 西田米藏	状	一
一四一	昭和一一年五月二五日	契約書（沈澱池等設備売渡しにつき）	仲介人 岡村今朝芳↓組合長理事長 大矢孝助	状	一
一四二	昭和一一年八月一〇日	領収書	塚田与一↓犀沢山白土販売利用組合清算御中	状	一
一四一	昭和一二二年三月三日	領収書（「家の光」滞り代一円）	産業組合更級郡部会↓大矢孝助	状	一
一	昭和一九年吉日	金銭出入附込帳	大矢孝助	横帳	一
一〇九	昭和二五年一月	昭和二五年一月木材引取税・其ノ他諸税記入帳	（大矢光雄）	冊	一
一四二	一月二一日	陶土代金入会分	長峯孝造	状	一
一三七	一月二	領収証（金二円八四銭）	徳永万吉↓塚田鶴治	状	一
三		村立安茂里青年訓練所規則		縦帳	一
三八		県税戸数割所得申告書		状	一
五二		県税戸数割賦課額表		縦帳	一〇
七七		小市分教場建築工事事業報告		状	一

一一三
一一五
一一六
一二四
一三六
一四〇
一四一—三
一四一—四
一四一—二
一四一—三
一四一—四
一四一—七

[illegible]

更級郡

長野市稲里町中氷鉋

瀬川氏収集文書

瀬川氏収集文書解題

瀬川氏収集文書とは、平成六年（一九九四）十一月、瀬川ヨシ氏（長野市稲里町中氷鮑）から当館へ寄贈された文書の総称で、総数は三八件、三八一点。

瀬川氏の資料は、使用済みの収入印紙・世界各国の切手、明治五年（一八七二）の小県郡の岩門村の反別取調帳、加賀川（神川）堤防改修工事関係文書からなる。

中でも、そのほとんどを占める国内外の切手・収入印紙等は、瀬川ヨシ氏の長女が女学校時代に神戸で収集したものである。年代は一九五〇年代と思われる。

他の小県郡岩門村に関する文書は、収集経緯が不明である。

No. 四の「加賀川通 小県郡上田町治水工事設計仕様書」によると、加賀川の堤防修繕工事は、神科^{かみな}村地籍字下河原に長さ七五間、平均高二間、馬踏^{ばふみ}二間、敷幅七間、表法^{のり}一割五分、裏法一割の河岸石堤と、川表根堅めのため二五組の楯^{たて}枠^{わく}を沈める。神川村字鳴澤に長さ九五間、法高四間、平均厚さ二間、馬踏^{ばふみ}六尺の河岸石服腹付、川表根堅めに長九〇間の続木床を埋めるといのである。工事費は三六二一円九四銭六厘。この工事費は大字常入地籍内の田地所有者に戸数割にして賦課された。

瀬川氏収集文書目録（一九九四・A・一五）

番号	年月日	表題（内容）	差出人・受取人	形態	数量
一	明治五年六月	畑高反別取調帳	小泉郡岩門村百姓代高嶋儀平↓長野県庁	縦帳	一
二	明治五年六月	切起見取持林正租反別取調帳	小泉郡岩門村百姓代高嶋儀平↓長野県庁	縦帳	一
三	明治五年六月	上（畑高反別取調帳）	小泉郡岩門村第二〇区組頭茅野嘉蔵↓長野県庁	縦帳	一
四	明治二九、三〇年	（加賀川堤防修繕工事関係書類）		綴	一
五	明治三〇年度	加賀川通小泉郡上田町治水工事設計仕様書	長野県	縦帳	一
六―一		収入印紙 一銭			一〇
六―二		収入印紙 一銭五厘			三
六―三		収入印紙 二銭			六
六―四		収入印紙 三銭			五
六―五		収入印紙 五銭			二
六―六		収入印紙 十銭			六
六―七		収入印紙 五十銭			二
六―八		収入印紙 五円			二六
六―九		収入印紙 十円			三
六―一〇		収入印紙 三十円			七
六―一一		収入印紙 五十円			七
六―一二		収入印紙 百円			一三
六―一三		収入印紙 二百円			一
七		証券印紙 十銭			九
八―一		取引高税印紙 一円			一
八―二		取引高税印紙 百円			二
九		価格表記 郵便物封緘紙			一

一〇一	日本切手	一円	二
一〇二	日本切手	二円	三
一〇三	日本切手	八円	一
一〇四	日本切手	十円	三
一〇五	日本切手	十五円	三
一〇六	日本切手	二十円	一
一一一	満州帝国郵政切手	一分	一
一二二	満州帝国郵政切手	二分	五
一二三	満州帝国郵政切手	三分	一
一二四	満州帝国郵政切手	五分	一
一二五	満州帝国郵政切手	一角	二
一二一	中華民国郵政切手	半分	四
一二二	中華民国郵政切手	一分	九
一二三	中華民国郵政切手	二分	一
一二四	中華民国郵政切手	三分	一
一二五	中華民国郵政切手	四分	四
一二六	中華民国郵政切手	五分	四
一二七	中華民国郵政切手	六分	一
一二八	中華民国郵政切手	一角	二
一二九	中華民国郵政切手	一角五分	一
一二一〇	中華民国郵政切手	二角	一
一二一一	中華民国郵政切手	三角	二
一二一二	中華民国郵政切手	四角	一
一二一三	中華民国郵政切手	一円	一
一三	中華民国郵政 航空郵票	一角五分	一
一四	香港切手	二〇セント	二

一五一一
 一五一二
 一五一三
 一五四四
 一五五五
 一五五六
 一五五七
 一五五八
 一五五九
 一五六一〇
 一五六一一
 一五六一二
 一五六一三
 一五六一四
 一五六一五
 一五六一六
 一五六一七
 一五六一八
 一五六一九
 一六〇一
 一六〇二
 一六〇三
 一六〇四
 一七一
 一七一二
 一七二三

アメリカ切手 〇・五セント
 アメリカ切手 一セント
 アメリカ切手 一・五セント
 アメリカ切手 二セント
 アメリカ切手 三セント
 アメリカ切手 四セント
 アメリカ切手 五セント
 アメリカ切手 六セント
 アメリカ切手 七セント
 アメリカ切手 八セント
 アメリカ切手 九セント
 アメリカ切手 一〇セント
 アメリカ切手 一二セント
 アメリカ切手 一四セント
 アメリカ切手 一五セント
 アメリカ切手 一六セント
 アメリカ切手 二〇セント
 アメリカ切手 二五セント
 アメリカ切手 三〇セント
 カナダ切手 一セント
 カナダ切手 二セント
 カナダ切手 三セント
 カナダ切手 五セント
 フランス切手 二〇サントイム
 フランス切手 三〇サントイム
 フランス切手 三五サントイム

七
 六
 一一
 一八
 一七
 五
 八
 五
 四
 二
 一
 六
 一
 一
 一
 一
 一
 二
 二
 二
 二
 二
 二
 二
 二
 一
 三
 四
 二
 二
 二
 二
 二
 二
 二

一七—四
 一七—五
 一七—六
 一八—一
 一八—二
 一八—三
 一八—四
 一八—五
 一九—一
 一九—二
 一九—三
 一九—四
 一九—五
 一九—六
 一九—七
 二〇—一
 二〇—二
 二〇—三
 二〇—四
 二〇—五
 二〇—六
 二〇—七
 二〇—八
 二〇—九
 二一—一
 二一—二

フランス切手 五〇サントイム
 フランス切手 九〇サントイム
 フランス切手 一七五サントイム
 ポリビア切手 一・五セントボ
 ポリビア切手 一〇セントボ
 ポリビア切手 一五セントボ
 ポリビア切手 二五セントボ
 ポリビア切手 四〇セントボ
 ソビエト連邦切手 一ルーブル
 ソビエト連邦切手 三ルーブル
 ソビエト連邦切手 五ルーブル
 ソビエト連邦切手 一〇ルーブル
 ソビエト連邦切手 一四ルーブル
 ソビエト連邦切手 一五ルーブル
 ソビエト連邦切手 二〇ルーブル
 オーストラリア切手 〇・五ペニー
 オーストラリア切手 一ペニー
 オーストラリア切手 二ペニー
 オーストラリア切手 二・五ペニー
 オーストラリア切手 三ペニー
 オーストラリア切手 四ペニー
 オーストラリア切手 六ペニー
 オーストラリア切手 九ペニー
 オーストラリア切手 二ドル
 ドイツ切手 五ペニヒ
 ドイツ切手 一〇ペニヒ

二 三 一 二 一 一 一 四 四 四 一 一 二 一 二 三 一 一 一 三 一 一 一 一 二 三

二一—三
二一—四
二一—五
二一—六
二二—一
二二—二
二二—三
二二—四
二三—一
二三—二
二三—三
二三—四
二三—五
二四—一
二四—二
二四—三
二五—一
二五—二
二五—三
二六—一
二六—二
二六—三
二六—四
二七—一
二七—二
二七—三

ドイツ切手 一五ペニヒ
ドイツ切手 三〇ペニヒ
ドイツ切手 五〇ペニヒ
ドイツ切手 一〇〇ペニヒ
インド切手 二セント
インド切手 三セント
インド切手 五セント
インド切手 一アンナ
アルゼンチン切手 二センタボ
アルゼンチン切手 三センタボ
アルゼンチン切手 五センタボ
アルゼンチン切手 一〇センタボ
アルゼンチン切手 一二センタボ
イタリア切手 二五チェンテジモ
イタリア切手 五〇チェンテジモ
イタリア切手 二リラ
イギリス切手 一・五ペンス
イギリス切手 二・五ペンス
イギリス切手 七ペンス
スウェーデン切手 一〇オーレ
スウェーデン切手 二五オーレ
スウェーデン切手 三〇オーレ
スウェーデン切手 四〇オーレ
ブルガリア切手 一レフ
ブルガリア切手 二レフ
ブルガリア切手 四レフ

一 一 一 二 一 一 一 一 二 二 二 三 二 一 二 四 四 一 一 二 一 二 一 二 一 二

二八
二九
三〇
三一
三二
三三
三四
三五
三六
三七
三八

ポーランド切手 二〇グロス
トリニダード・トバゴ切手 一・五ドル
チエコスロヴァキア切手 二コルナ
セイロン切手 六セント
デンマーク切手 一五オーレ
南アフリカ切手 〇・五ラント
パナマ共和国切手 一ドル
キューバ共和国切手 二センタボ
ルーマニア切手 一・五五レイ
不明切手
都営電車・トロリーバス共通回数券

二
二
二
一
一
一
一
一
一
一
三

その他購入文書

その他購入文書解題

この文書群は、昭和四十九年（一九七四）、長野市教育委員会が古書店より購入したものである。その後、博物館開館と同時に当館へ移管された。

整理にあたっては、地域、人名をもとに小項目をたてた。総数は二三件、五九点。

この文書群のうち注目すべきものは、「春原織衛」、および、「春原織右衛門」の関係文書が含まれていることである。このうち、後者に関しては、『真田家家中明細書』にその名がある。また、ここに含まれる文書と比較対照すると次のようになる。〔 〕内は、この文書からわかる内容・それ以外は、『真田家家中明細書』による〕

天保 六年 一月 三日 家督

一二月 一六日 御番人

一一年 八月 二七日 定火消

〔天保十四年 三月 九日 麻疹流行のおり骨折りにつき報償として酒を送られる〕

弘化 二年 二月 二一日 若殿様御近習役

嘉永 七年 五月 二八日 磯喜から織右衛門と改名

五月 二九日 出府

七月 二三日 出府のため青銅五〇〇疋を与えられる

一〇月 二五日 御側御右筆御近習役兼帯

安政 五年 一〇月 二〇日 御役替御持筒頭御側御右筆兼帯

六年 五月 二五日 御役替御側御右筆工帰役、御側役席

文久 元年 一〇月 一六日 御役替御普請奉行

〔文久 二年 二月 二七日 幸隆様ご逝去の際骨折りにつき帷子をたまわる〕

〔文久 三年 一月 二一日 学校槍術教授方に任ぜられる〕

〔同 三年 六月 真田御陣家へ臨時出御陣場奉行・兵糧奉行に任ぜられる〕

九月 二三日 御役替御宮奉行

慶応	元年一月九日	御役替足輕奉行御普請奉行兼帶
(同)	二年六月一日	定松院様入府のおり骨折りにつき青銅三〇〇疋をたまわる)
(同)	二年六月一七日	御落城御留守中に骨折りにつき袴をたまわる)
同	四年正月二十四日	御役替御物頭足輕奉行御普請奉行兼帶
明治	二年二月三〇日	御賞典二〇石
同	三年八月一八日	銃兵副隊長補兵小隊長兼勤
同	四年八月四日	依願免職

このようにみると、両者の資料には何らのダブリも生じていない。この点をどう解釈すべきかは問題である。もともと、春原織右衛門なる人物が、『真田家家中明細書』に記載されている人物とは別人という可能性もなきにしもあらずである。また、これから『真田家家中明細書』の史料的制約や、ましてその価値評価までは論じるべきではなく、こうした類例にあたりながら考えていくことも重要であろう。

その他購入文書目録(五五・C・一)

番号	年月日	表題(内容)	差出人	受取人	形態	数量
(小島田村関係)						
六	明和五年	(宗門改帳)	小島田村上組長沢伊右衛門		縦帳	一
四	天保五年一月	卯有地御改惣治郎分御水帳			縦帳	一
二	天保一年三月	五人組御改御書上下帳	小島田村上組名主彦九郎	職御奉行所	縦帳	一
七	安政四年一二月	頼母鋪無尽帳	伊兵衛		縦帳	一
五	元治二年二月	宗門人別御書上下帳	小島田村上組		縦帳	一
八	元治二年二月	五人組軒別御書上下帳			縦帳	一
(大塚村関係)						
一	万延二年二月	(牛馬・奉公人・職人の改帳)	大塚村西組 名主政右衛門ほか		縦帳	一
一二	文久三年八月	(改元などについての廻状)	(大塚村北島組役元ほか)	連蔵ほか	状	一
(三水今泉村関係)						
一五	嘉永六年八月	(水車建設願い)	三水今泉村名主林左衛門ほか	道橋御奉行所	状	一
一七	文政一一年一月	(名主ほか交替につき届出)	三水今泉村名主平左衛門ほか	御奉行所	状	一
一三	欠	(たよ縁組につき引取証文)	八幡村	三水今泉村御役人	状	一
(春原織衛資料)						
二二一	享保二〇年一二月	(名改めの許可)		春原織衛	状	一
二二二	享保二一年三月一日	(豊之助様御近習に任ず)		春原織衛	状	一
二二三	延享五年四月二六日	(引っ越しの許可)	原小隼人	春原織衛	状	一
二二四	宝暦九年四月一八日	(登城の呼び出し)	祢津大炊	春原織衛	状	一

二二一五	宝曆九年四月一九日	(目付役に任ず)		春原織衛	状
二二一六	宝曆九年一月一二日	(御役付き足輕五人を許可)		春原織衛	一
二二一一	明和三年五月一日	(養子縁組の許可)		春原織衛	一
二二一二	明和三年八月四日	(倅・惣太郎の御目見許可)	柅津治部左衛門	春原織衛	一
二二一三	明和三年九月二七日	(検見につき登城願い)	柅津大炊	春原織衛	一
二二一四	明和三年十一月六日	(倅・惣太郎を儀右衛門と改名許可)	恩田新六	春原織衛	一
二二一五	明和三年十二月一日	(普請奉行に任ず)		春原織衛	一
二二一六	明和三年十二月一日	(御役付き足輕十人を付す)		春原織衛	一
二二一七	明和三年十二月一日	(評定所への呼び出し)	鎌原司馬	春原織衛	一
二二一八	(明和五年)五月一日	(竹内金左衛門普代諸番を任ず)		春原織衛	一
二二一九	明和五年六月三日	(儀右衛門の婚姻許可)		春原織衛	一
二二二〇	明和七年九月一日	(中原新藏御仕置きにつき)	鎌原司馬	春原織衛	一
二二二一	明和七年九月一日	(中原御仕置きの際無罪に付申し付け事項)		春原織衛	一
二二二二	明和八年八月二八日	(数寄屋橋御奥様お守りのため出府命令)	矢沢将監	春原織衛	一
二二二三	明和九年七月一九日	(南部坂御屋敷へ御呼び出し)		春原織衛	一
二二二四	明和九年七月一九日	(来年まで滞府命令)		春原織衛	一
二二二五	明和九年七月一九日	(滞府のため十両を与える)		春原織衛	一
二二二六	三月一日	(御家中武芸稽古之儀改様合に任ず)		春原織衛	一
二二二七	一〇月九日	(御掘土工改に任ず)		春原織衛	一
二二二八	九月一日	(小河原村検地御用勤に任ず)	春原織衛・緑川糸右衛門	春原織衛	一
二二二九	五月一日	(私宅への呼び出し)	柅津治部左衛門	春原織衛	一
二二三〇	八月一七日	(私宅への呼び出し)	柅津数馬	春原織衛	一
二二三一	九月三〇日	(御出府御目見につき)	矢沢将監	春原織衛	一
二二三二	九月二八日	(春原織衛御役替えにつき)	矢沢将監	春原織衛	一
二二三三		(起請文前書之事)	柅津小膳	春原織衛	一
二二三四		(小端村千本柳村検地につき)	春原儀右衛門	春原織衛	一

(春原織右衛門資料)

番号	年月日	表題(内容)	差出人	受取人	形態	数量
二二一	天保一四年三月九日	(麻疹流行のおり骨折りにつき酒を与える)		春原磯喜	状	一
二二二	嘉永七年五月二九日	(出府につき)		春原織右衛門	状	一
二二三	嘉永七年七月二三日	(江戸出立につき青銅五百疋を与える)		春原織右衛門	状	一
二二四	文久二年十二月二八日	(幸隆院様御卒去の際骨折りにつき帷子を与える)		春原織右衛門	状	一
二二五	文久三年一月二一日	(学校槍術教授方に任ず)		春原織右衛門	状	一
二二六	文久三年三月六日	(真田御陣家へ臨時出御陣場奉行・兵糧奉行に任ず)		春原織右衛門	状	一
二二七	慶応二年六月一日	(貞松院様入府のおり骨折りにつき青銅三百疋を与える)		春原織右衛門	状	一
二二八	慶応二年六月一七日	(御上洛御留守中に骨折りにつき袴を与える)		春原織右衛門	状	一
(受入先不明)						
一一	明和四年七月二六日	(法印の免許状)	法橋快長		状	一
二〇	文化一一年七月	(さぬ縁組につき村送り状)	大日方村庄屋六右衛門ほか	越道村 観善寺	状	一
三	文政二年	(松代藩士分限帳)		南牧村御役人	状	一
一四	天保七年二月	(留吉縁組につき寺送り証文)	宮平組高厳寺	同村天宗寺	横帳	一
二一	天保一二年二月	(三ヶ村の村定め議定書)	野平新田ほか三カ村	御役人	状	一
一六	文久四年	(りと縁組につき村送り状)	原村名主吉左衛門	宮野尾村御役人	状	一
一九	明治二年二月	離縁立戻り一札之事(雛型)			状	一
一八	明治七年五月一〇日	(地所売渡証文)	野平新田村勝野善吉ほか	佐藤藤三郎	状	一
一〇	大正一五年測量	長野都市計画地域図(二万分一)			地図	一
九		世界新地図			縦帳	一

長野市立博物館収蔵目録

歴史 3

1999年3月31日

発行 長野市立博物館

長野市小島田町1-4-14

☎ 026 (284) 9011

印刷 奥山印刷工業株式会社

